

2022年



3月

草の根

BULLETIN OF THE AICHI COUNCIL AGAINST A&H BOMBS

発行 原水爆禁止愛知県協議会
発行人 大村義則
〒461-0004
名古屋市中区葵1-22-26
Tel(052)932-3219
Fax(052)931-2651
gensuikyo@lime.ocn.ne.jp
毎月1回 6日発行
月40円/年間480円



2月12日、愛知県原水協2022年度定期総会を民主会館の会場でオンラインを併用して行いました。地域原水協や加盟・支援団体から、会場に21名、オンラインでは15名の参加がありました。昨年亡くなられた被爆者、反核・平和運動に力を尽くされた方々に黙祷を捧げた後、開会のあいさつを沢田理事長が行いました。沢田理事長は「核兵器禁止条約締結国会議、NP

核兵器禁止条約を力に 草の根で原水協運動を広げよう 2022年度 定期総会



「再検討会議、また参議院選挙が行われる今年に『条約』を市民に強く訴えていかなければならない。それが原水協の役割だ。そして、核兵器を無くすことは戦争を無くすことにつながっていく」と語りました。

オンラインの強みを生かした取り組みを

次に総括と方針の提案が行われました。オンラインでの開催となった3・1ビギンデー、原水爆禁止世界大会では、多くの地域・団体で視聴会が行われ、のべ参加人数では近年の参加者数を大きく上回り、初めて参加する人も多く「参加してよかった」という感想が各地から寄せられたことなど、各地域・団体が積極的に視聴会を開催して、気軽に参加できる環境を作ってきた成果だと報告されました。今年も3・1ビギンデーはオンラインのみの開催となり、世界大会も現地での開催がどうなるかわからない状況ではあるものの、これまでの経験を生かし、オンライン視聴会場を増やし、世界大会参加者を増やしていくことが提案されました。

平和行進も、従来のように全コースを歩いてつなげる平和行進はできなかったが、各コース、各地域で行われたスタンディングや折り鶴、行進ペナントの授与式などを宣伝カードにつないでいく形で行われ、例年以上にペナントと折り鶴が届けられたことが特徴としてあげられ、その様子をフェイスブックなどのSNSで毎日配信したこと、6月20日には寄せられたペナント、折り鶴、署名の前で「平和行進

署名推進、意見書採択をさらに進めよう

活動の軸となる署名の取り組みでは、ヒバクシャ国際署名をすすめる愛知県民の会を引き継ぎ「日本政府に核兵器禁止条約への参加を求める愛知県民の会」が発足しました。35名の呼びかけ人にコープあいち理事長がいち早く名を連ね、コープあいちでは注文書の中に署名用紙を折り込み、2万筆以上の署名を集めています。参議院選挙を控える中、禁止条約に参加する政府の実現に向けて、草の根から市民に訴えていくために、毎月の6・9行動に加え、団地や商店街などへのポストイン作戦など各地域での経験を生かして署名を広げていこうと提起されました。

まとめ集会」をオンラインで配信したことが報告されました。会派、議員との懇談や働きかけなどが地域原水協を中心とした熱心に取り組まれたが、実を結ばなかったと総括し、地方議会の政治情勢も勘案し、核抑止力論をテーマとした学習会などを企画し、議員に参加を呼びかけるなど、「突破口」を作る取り組みを進めていくことが方針として提案されました。

被爆者支援については、被爆者支援ネットワークの活動として、8月に金山駅コンコースでの「原爆と人間展」を開催、12月に被爆者を励ますついでを行い、原爆犠牲者を偲ぶつどい、愛知県全自治体に被爆者支援・平和行政を求める被爆者行脚の援助を通じて愛友会の活動支援を行ったことが報告されました。

また、全国で628自治体、全自治体の35%が日本政府に禁止条約への参加を求める意見書を探採しているのに対し、愛知県では6自治体、11%と取り組みが遅れていることに、関しては、意見書提出の請願・陳情運動、各

毎月6・9行動の大切さ
若い世代への働きかけの工夫を

討論では、地域原水協や団体から日常的な運動の報告や経験が報告されました。稲沢市原水協から、「毎月6・9行動を行い、署名の数は少なくても、毎月毎月行動しているという市民に知らせることも大事」「意見

書についても引き続き訴えていく」と発言があり、一宮市、守山区でも毎月6・9行動に取り組む中で、学生や若い人の反応がよいことも報告されました。瀬戸反核センターの須田さんは「戦争体験の継承など、学校ではできないことを自分たちが積極的にやっていた必要がある」と被爆者、戦争体験者の話を通じて若い世代に訴えていくことの大切さを話し、田原市原水協の安間さんは「修学旅行で広島、長崎を訪れている学校の生徒は、現地で被爆者の話を聞いています。私たちの働きかけをもっと工夫していく必要がある。心に働きかけるような企画をすることが大切」と話しました。



2022年度 県原水協役員

- 代表理事
 - 大村 義則 (個人、被爆2世)
 - 加藤 聡也 (愛高教委員長)
 - 小池 まり子 (新婦人愛知県本部会長)
 - 小島 俊樹 (県平和委員会理事長)
 - 樽井 直樹 (自由法曹団、弁護士)
 - 西尾 美沙子 (愛労連議長)
 - 津田 康裕 (名古屋市職労委員長)
 - 服部 守延 (愛商連会長)
 - 近藤 知己 (愛知県民医連会長)
 - 林 達也 (自治労連県本部委員長)
 - 安間 慎 (田原市原水協理事長)
- 事務局長
 - 佐竹 康行
- 顧問
 - 沢田昭二
- 各団体・地域原水協理事 (敬称略)

その後、総会に提案された総括と方針案、決算・予算案、役員人事案は、参加者の拍手で承認されました。

沢田理事長が退任 専従事務局体制の確立

今年度の役員体制では、長い間理事長として原水爆禁止運動の先頭に立たれてきた、沢田昭二理事長が理事長を退任され、顧問の役に付くことが決定しました。沢田さんは「被爆者として、また物理学者として自分の被爆体験や核兵器の恐ろしさについて、色々なところで話していきたい」と語られました。後任の理事長については、今年度は空席とし、代表理事がその任を負うこと、副理事長も空席とすることを承認されました。

専従体制が取れなくなっていた事務局長については、この間多くの団体・個人の協力によって財政を再建することができ、専従事務局長を確保することができました。専従として事務局長に付くのは、日本原水協事務局次長の佐竹康行さんです。ご存知の方も多いと思いますが、佐竹さんは元愛知県原水協事務局長で、東京から愛知に戻ってきて事務局長として奮闘することとなりました。日本原水協との兼ね合いにより4月から事務局長として就任する予定です。また、専従不在の間、事務局次長として原水協事務局を支えていただいた嶺村君代さんは、2021年度をもって退任されることとなりました。

原水爆禁止2022年 世界大会の成功へ 『平和の波』を作ろう！

2月18日、原水爆禁止世界大会実行委員会第89回総会が開かれ、2022年世界大会開催のよびかけが発表されました。被爆地である広島・長崎で世界大会を開催すること、そのために細心の感染防止努力を払って準備し、被爆地への最大結集での開催(広島をメイン)とともに、2021年世界大会の教訓をふまえて全国、全世界をオンラインでつなぎ、昨年(1万人)を上回る参加で成功させるとしています。

ロシアのウクライナ侵攻は、国連憲章に反しているのはもちろん、プーチン大統領の核兵器の使用をちらつかせて圧力をかける行為は、核兵器禁止条約で禁止している「使用の威嚇」そのものであり、世界中の多くの国と人々が求めている「核なき世界」への道を逆行するものです。よびかけでは、国連憲章にもとづいて紛争の平和解決と核兵器の全面禁止を求め、諸国民の世論と行動をいまこそ発展させる時として、広島や世界各

原水爆禁止2022年世界大会 日程(予定)

＜現地開催とオンライン視聴会の併用で開催＞

＜国際会議・世界大会-広島 (ヒロシマデー集会)＞
 8月4日 (木) ~6日 (土) >
 開催場所：広島県立総合体育館・グリーンアリーナ
 8月4日 (木) 13:00~16:30 開会総会/全体会議
 5日 (金) 10:00~12:30 全体会議
 14:00~17:00
 被爆者との交流・テーマ別集会
 資料館・遺構めぐり等
 6日 (土) 10:30~13:00
 世界大会-広島 (ヒロシマデー集会) 閉会総会

＜世界大会-長崎 (ナガサキデー集会) 8月9日 (火) >
 開催場所：長崎市民会館体育館
 8月9日 (火) 10:30~13:00
 世界大会-長崎 (ナガサキデー集会)

にしている。今の日本政府に對して、私たちは、大会の直前にある参議院選挙でも、主権者が日本の核兵器禁止条約批准を選択するよう、被爆の実相普及、署名や対話など世論の構築と国民的な共同の活動を強化し、大会をその成果のうえに開催すると呼びかけられました。

そのための運動として、平和行進の成功、草の根での署名の推進、被爆の実相を伝える原爆パネル展の開催、被爆体験の聞き取り・伝承など「核廃絶、禁止条約を批准する日本政府を」の世論を広げるとともに、憲法9条改

3・1ビキニデーに参加した皆さんへ

集会に参加した感想をお寄せください。
 メール gensuikyo@lime.ocn.ne.jp
 FAX 052-931-2651
 で県原水協事務局に送ってください。

地域の活動をお知らせください

毎月の6・9行動の様子、地域で工夫している取り組みなどの各地域の情報を共有し、活動に生かしていきましょう！
 これからの取り組みのお知らせ、取り組んだ感想などをメール、FAXで県原水協事務局まで送ってください。
 ※できれば写真も一緒に

「原爆、忘れまじ」復刻版プロジェクト クラウドファンディング目標達成



昨年12月末までに150万円を目標に行われた、「原爆、忘れまじ復刻版プロジェクト」のクラウドファンディングは、たくさんの協力により無事に達成しました。本当にありがとうございました。

復刻版プロジェクトは、現在、既刊7冊の復刻に加え、新たに8冊目の制作に取りかかっています。完成は、2022年8月を予定しています。制作の進み具合など復刻版プロジェクトの様子などはHPでも見られるようにしていく予定です。

悪反対、沖縄新基地建設反対、原発反対や気候危機打開・地球の環境を守る運動、ジェンダー平等を求め運動など幅広く様々な運動の連帯することが呼びかけられました。